

先輩インターンの活躍について

派遣年度	2013	インターン番号	KB006	タイプ	公募型
派遣国	バングラデシュ人民共和国			派遣都市	ダッカ
受入機関	Bangladesh Railway				
受入機関概要 (事業内容等)	バングラデシュにおける最大政府系機関の一つ、国内の鉄道運營業務を担う省の一つである。				
派遣期間	2013年9月24日～2014年2月28日				
現在の所属先	オランダ、ワーヘニンゲン大学院修士		当時の所属先	千葉大学園芸学部	
現在の所属部署	開発経済学専攻		所在地	オランダ	
区分	学生		性別	男	

1. インターンシップに参加されたきっかけや動機についてお聞かせください。

大学学部3年だった当時、アジア最貧国と呼ばれていたバングラデシュに渡り、国の現状を自分の目で見てみたかったというのがまずありました。加えて、政府系の機関を希望し、途上国における開発業務が行政主導でどのように遂行されているのか触れたかったという思いもあり、バングラデシュ鉄道を選びました。

2. インターンシップではどのようなことをされましたか。

まずは各部署をまわりながら各職員から業務内容についてレクチャーをうけるような形でした。省レベルの巨大機関だったということもあり、各地方のオフィスにも出張させていただく機会に恵まれたのも特徴だと思います。途中からは自分の興味が出た分野に重点的に関わられるよう、インターンの内容を変えながら時にJICAやアジア開発銀行との会議などに参加させてもらっていました。

3. インターンシップに参加して達成できたこと、参加して良かったことは何でしょうか。

第一にインターンシップでの数々の出張やディスカッションを通し、バングラデシュでの問題に実際に触れ、最貧国と呼ばれる国で何が起きているのかを実感できたということが大きいと思います。現地に出向く新興国経験は、その後の学部での勉学のみならず、今現在開発修士の勉学においても役に立っています。バングラデシュという国の商習慣やイスラム教の文化を体験したことも、今後バングラデシュという国で業務に携わる上では欠かせない経験になったように思います。加えて、インターンシップ先が政府系機関だったということもあり、新興国の行政で起きている様々な問題、日本を含めた各国の援助機関との関係性など、外からは見えない問題にも精通することができたのは、本インターンシップならではの経験だと思います。

インターンシップ風景



イード犠牲祭にて



朝の通勤ラッシュ(鉄道)

4 インターンシップの経験は、その後どう活きましたか。具体的なエピソードを交えて教えてください。

インターンシップ終了後すぐに日本で就職活動が始まりましたが、新興国政府系機関におけるインターンという珍しい経験は多くの場面で評価されました。就職活動先も、インターン中に興味を持った業界や企業に絞った、ということもあり、インターンを通してやりたいこと、興味のある分野の方向性がまとまり、スムーズに進んだ、という側面もあると思います。

私は最終的に就職活動を止め、海外修士留学を目指して大学院への出願、奨学金への応募に移っていきました。最終的に大学院・奨学金ともに合格することができたのも、インターンでの経験に裏付けられた研究計画が評価されたのではないかと、思います。卒業時にあたっては千葉大学(出身大学)より学長表彰をいただくことができ、インターンシップ経験の評価が加味された、と聞いています。

学部卒業後は、大学院への9月入学までの期間を使用して、バンコクにある国連農業食糧機関(FAO)でインターンシップをさせていただき、その際もバングラデシュでの経験から、マイクロファイナンスに関する業務に携わらせていただきました。マイクロファイナンス機関への聞き取り調査にあたっては、インターンシップを通して知り合ったバングラデシュ人の友人を頼ることもでき、当時のネットワークを活用させていただくこと場面もありました。

修士留学を目指すきっかけとなったのも、バングラデシュ滞在中にビジネス視点からの新興国開発、というものに触れたこと、マイクロファイナンス(農村金融)という学問/プロジェクトに出会えたことからでした。今はオランダのワーヘニンゲン大学で農業経済学を専攻としながら修士留学をしており、今後マイクロファイナンスに関する研究論文を書きたいと考えています。

今いる大学院にも多くのバングラデシュ人が研究留学をしているので、彼らと話すきっかけもインターンですし、授業にあたっては、オランダの大学院ということもあり南アジアでの業務経験を持った学生は少なく、バングラデシュでの経験を話すことは授業への参加にあたって役に立っています。

5. 最後に、インターンシップへの参加を検討している人たちへメッセージをお願いします。

今振り返ると、インターンシップは様々な「きっかけ」の場なのではないかと思っています。本インターンシップだからこそつながることができた現地の関連機関(特に政府系機関)や、知り合うことができた職員・友人のおかげで視野が大きく広がり、将来仕事にしたいことや、もっと学びたいと思うものに出会うことができました。私にもこれが最善の選択だったのかはまだわかりませんが、バングラデシュでの本インターンを通して道が変わり、今こうして修士留学していることを嬉しく思います。何かを変えたり、視野を広げてみる「きっかけ」作りに、是非本インターンを活用することをお勧めいたします。

現在の活躍の様子



オランダ・ワーヘニンゲン大学



留学先でのバングラデシュ人の学生たちと